

国臨協新潟地区会会報

朱鷺つと

2021年7月発行第92号

発行者: 中村 茂 (さいがた)

編集委員: 磯 敬 (新潟)

田村 里美 (西新潟)

織原 大貴 (さいがた)



春日山 謙信公像



退職者挨拶

定年によせて

新潟病院

南雲 伸夫

新潟地区会の皆さまには益々のご清祥のことお慶び申し上げます。

誌面をお借りして退職のご挨拶をさせていただきます。

1983年(昭和58年)3月より旧国立療養所西小千谷病院に採用いただき3施設で38年間、国立医療機関でお世話になりました。最後の最後で胸椎の圧迫骨折というおまけ付きになりましたが、この間、大過なく勤められたことに感謝申し上げます。

振り返ってみますと振り出しの西小千谷病院では在職期間のほぼ半分となる18年間を過ごさせていただきました。

専門学校卒業後、埼玉の病院に勤めておりましたが、どうしても生まれ故郷である小千谷への思いが強く地元での仕事を探していた折り、提出していた履歴書のおかげで西小千谷病院から声をかけて頂きました。賃金職員という身分に若干の不安はありましたがお世話になることに決めました。西小千谷病院は小千谷の中心地から車で15分ほどの小栗田に位置し広大な土地に平屋建ての病棟、結核療養所から脳血管疾患、リハビリ、神経難病に機能転換した病院で、正面玄関を入ると100m走が出来そうなほどの長い中央廊下や研究機器としては当時日本でも数台といわれる質量分析装置などが配備されていたことにとても驚かされました。さすが国立といった感じです。(もっとも当時の自分はそれ程の知識もなかった為、質量分析装置といわれてもチンプンカンプンでしたが...)入職当時の技師長(目崎)さんには仕事以外に趣味のスキーでも大変お世話になりました。発足当初の新潟地区会にも連れて行っていただきました。開催地は旧佐渡療養所。佐渡汽船から見た海と空の青さは今でも忘れられません。思い出多い西小千谷病院でしたが、国立病院の統廃合・移譲計画の波には抗うことができずに平成13年2月をもって移譲となりました。西小千谷病院最後の日は言いようのない寂しさと次の勤務施設への不安でいっぱいだった事を覚えています。

次施設の新潟病院では不安はあったものの地区会での交流のおかげもあり、仕事面は別として雰囲気にはわりと早く慣れることが出来たように思います。新潟病院での勤務にも慣れ2年数か月が過ぎたころ国立病院の独立行政法人化に際して降ってわいたように賃金職員の定員化のはなしが持ち上がり、正直なところ三国峠越えも覚悟したのを思い出します。

出来れば県内で...との思いが叶い平成15年11月西新潟中央病院で採用となりました。西新潟中央病院はてんかん、睡眠時無呼吸症のセンター、NST認定施設になっており貴重な経験をさせていただきました。長距離通勤で大変な面もありましたが皆さまには随分と助けていただきました。特に平成16年の中部地震の時など、忙しい中駆けつけ色々と助けて頂いたこと今でも忘れません。ありがとうございました。

3年5ヶ月の西新潟中央病院勤務後、平成19年4月、再度新潟病院に配置換えとなりました。検査科は耐震補強工事中の為、プレハブでした。耐震補強工事後引っ越しが終わった直後に中部地震。プレハブの時だったと思うとゾッとしたのを覚えています。以来新潟病院では14年、もともと微力な為たいした貢献も出来ず心苦しいばかりでしたが、良きスタッフにも恵まれ退職の日を迎えられた事、エコノミクス症候群のフォローアップ検診等貴重な経験をさせていただいたこと感謝申し上げます。

最後になりますが新潟地区会の益々の発展と皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。

追伸 コロナ禍の中、すべての会合が自粛ムード一色、地区会の皆さまにもお会い出来ない状態ですが、4月からも再雇用で勤務しております。そのうち何処かでお会いできるのを楽しみにしております。

定年退職 記念品贈呈



新潟地区会より記念品を
贈呈させていただきました。
(2021年3月)



南雲さん
長い間お疲れさまでした。

転出者挨拶



まつもと医療センター
臨床検査技師長
岡村 治

『新潟地区会を転出して』

この度、4月1日付で“まつもと医療センター”へ異動となりました。新潟病院在任中の3年間は新潟地区会の皆様には大変お世話になり有難うございました。

地区交流活動では和紙作り体験や利き酒会、そして海辺でのバーベキュー等の交流は新潟ならではの忘れられない楽しい思い出となりました。しかし、COVID-19感染拡大により、研修会・交流会はもとより新潟の地で開催されるはずの第74回国立病院総合医学会も集合型の開催が行えず、前例の無いWEB開催となりましたが皆様のご協力により無事に終えることができました。その後も皆様とはお会いできないまま異動になりとても残念です。

十数年ぶりに長野県の施設で勤務になります。赴任した“まつもと医療センター”は、新潟病院と同様に重症心身障がい児(者)及び神経難病の病床があり、新潟病院での経験を活かせればと思っています。COVID-19感染症を疑う患者に対しては抗原検査とPCR検査を実施しており、陽性の患者(主に軽症者)を受入れている状況です。各施設におかれてもPCR検査等で負担が増しているなか、ワクチン接種要員を臨床検査技師にも拡大することが示されるなど、臨床検査技師の活躍が期待されています。前向きにとらえ臨機応変な対応をしていきたいと思っています。

最後に、新潟地区会の益々のご発展と会員皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、異動のご挨拶とさせていただきます。



**精神・神経医療研究センター
主任臨床検査技師
蓮見 章太**

4月1日よりさいがた医療センターから国立精神・神経医療研究センターに配置換えになりました蓮見です。前施設では2年という短い期間ではございましたが、在職中は新潟地区会のみなさまには大変お世話になりました。上越の土地に足を踏み入れるのは初であり新潟自体に行くのはウインタースポーツで塩沢石打に行ったくらいです。単身であったので週末などは自宅の埼玉と片道3時間半から4時間を往復していました(コロナ禍になり控えましたが)。車のため高速を使うのですが上信越自動車道か、ほくほく街道を70km走って六日町ICから関越自動車道を使用するか、の2択でしたがコストを下げるためよく後者にしておりました(帰らずにリース官舎でじっとしてるのが一番のコスト削減であることは重々承知しております)。春に自宅に帰る途中、ほくほく街道に儀明という場所があるのですが水を張った田んぼが水鏡となりそこに映しだされる桜と棚田が織りなす景観が見事です(この時は白米千枚田にも引けをとらないと私は自負しております)。

新潟県の県民性を表しているのか勤勉で情に厚く初めて主任として赴任した私を温かく迎えていただきました。さいがた医療センターは精神科、脳神経内科などが主な慢性期医療が主な療養所タイプの施設で、建物の造りもトンボ型で穏やかな雰囲気となつかしさがありました。病院の中庭にカルガモの赤ちゃんが生まれたときは職員たちで小屋を設置し、お引越しの時は病院の横の川まで見送りなどほっこりすることもしばしば。医師をはじめ看護師、コメディカルの方々との横の繋がりが強く一丸となって患者さんに接してホスピタリティ精神に溢れていました。その施設で医療に従事できたことは私にとって貴重な経験です。赴任した施設でもご指導していただいたこと生かしていきたいと思えます。このご時世ではありますが新潟地区会の発展と皆様の御多幸をお祈り申しあげご挨拶とさせていただきます。

転入者挨拶



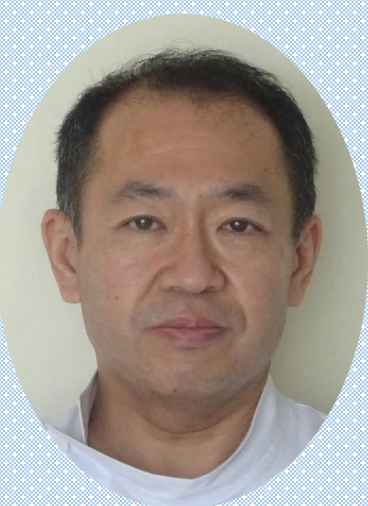
**新潟病院
臨床検査技師長
中島 亮**

令和3年4月1日付けで新潟病院に赴任いたしました中島亮と申します。出身は埼玉県大宮市で現在は千葉県柏市に自宅があります。勤務地は霞ヶ浦医療センター（賃金職員）、東京医療センター、千葉東病院、高崎総合医療センター、そして前施設の相模原病院より6施設目となります。どうぞよろしくお願いいたします。新潟病院は筋ジストロフィー、重症心身障害児（者）、神経難病の医療を行っており、サイボーグ型ロボットHAL等を使用した理学療法を中心とした病院で、スタッフの人数も検査科9名に対して、リハビリ科は助手を含め45名のスタッフがいてリハビリテーションに力を入れているのがわかります。

私にとって新潟県は小千谷市出身の先輩が、よくスキーに連れて行ってくれた土地で、おいしい地酒や食べ物に出会える魅力的な県だと思います。また病院のある柏崎市は、海が近く釣り人が多いので、この機会に始めてみようと思い釣り具を購入しましたが、全くの初心者なのでどなたか教えていただける方がいれば、是非お願いいたします。

最後に、会員の方々と地区会でお会いすることを楽しみにしていましたが、コロナ禍のため様々な催しが中止となり大変残念ですが、新潟地区会を皆様とともに楽しく盛り上げていきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

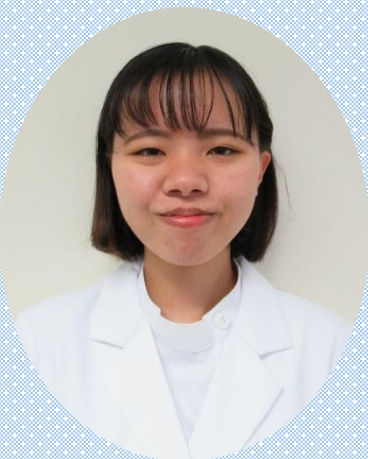
さいがた医療センターに赴任して



**さいがた医療センター
主任臨床検査技師
竹内 英規**

令和3年4月1日付けで精神・神経医療研究センター病院より赴任してまいりました竹内英規です。千葉県、東京都、長野県、東京都の順で転勤し新潟県で7施設目になります。さいがた医療センターには25年以上前に一度来たことがあります。私は精神・神経センター病院は2回目で、1回目の赴任で武蔵病院（精神・神経医療研究センター病院）にお世話になりました、大沼先生が犀潟病院（元院長）に行かれることになり、当時の武蔵病院には、お酒を楽しむ会（おおらかな時代）がありそのメンバー（医師、看護師、コメディカル）が新潟でお酒を楽しむ会を開くことになり、その際に病院見学をしました。さいがた医療センターでは、検体検査を主に担当していますが電子カルテ、部門システム、検査機器は初めて見たものがあり操作手順に戸惑うことがあります。

新潟地区会には、見知った方々もいますがCOVID-19の影響で地区会交流会の中止となりお会いすることが出来なくなり残念に思っています。今年のCOVID-19ワクチン接種が全国に進み交流活動が再開された時に、皆様にお会いできることを楽しみにしております。



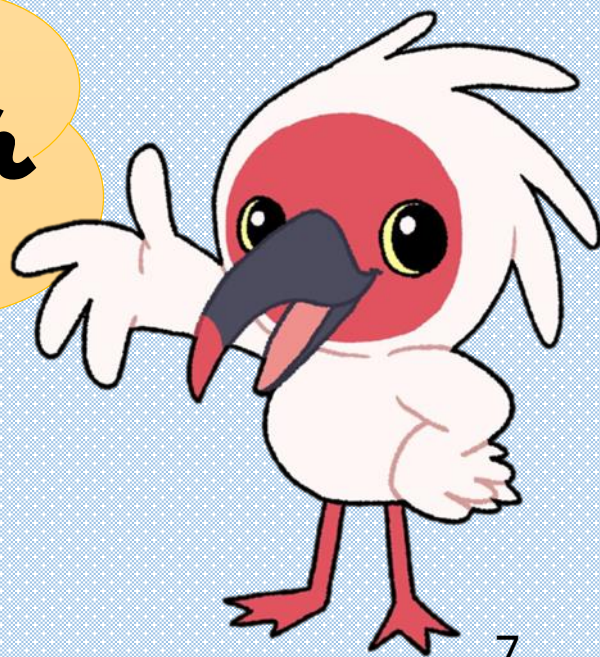
**新潟病院
臨床検査技師
宮平 来果**

初めまして、令和3年4月より新潟病院に入職しました宮平来果（みやひら らいか）と申します。出身は沖縄県で、国際通りや首里城がある那覇市に高校卒業まで暮らしていました。臨床検査技師の資格取得と一人暮らしに憧れていたこともあり沖縄を出て、大学時代は琵琶湖のある滋賀県で暮らしていました。現在は縁もゆかりもなかった新潟県で暮らしています。滋賀県では、少し雪が降る程度の地域にいましたが、新潟県ではしっかり積もるとお聞きしましたので、今年の冬を楽しみに過ごしています。

新社会人、初めての新潟県、またコロナウイルスの影響で病院実習が中止となり実際の検査科の一日の流れなど全く知らず不安はありましたが、新潟病院検査科の上司・先輩方が温かく迎え入れてくださり、現在は楽しく日々の検査に務めています。新潟病院で基礎をしっかりと習得し、さらに専門的な知識と技術を学びながら、資格取得にも挑戦したいと考えております。

まだまだ至らない点が多々あるかと思いますが、一日でも早く検査科の一員として自立できるよう、精進してまいります。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。またコロナ禍の中で交流することもなかなか難しいですが、新潟地区会の皆様にお会いできる機会がありましたら、どうぞよろしくお願い致します。

**転入者、新人のみなさん
よろしくお願いします！**



今後の活動予定

- ・ 9月4日（土）10：00～
第49回国臨協関信支部学会（ライブ配信）
「地区会コーナー」新潟地区会ポスター設置予定
- ・ 「朱鷺っと」発行：10月予定
- ・ 地区会定期総会、研修会日程：11月予定

＊新型コロナウイルス感染症の状況により
変更となる場合があります。

編集後記

今年度の地区交流会は残念ながら中止となってしまいました。

次回の「朱鷺っと」ではその代わりとして、会員の皆様からの自己紹介を掲載したいと考えております。次回もご協力よろしくお願いいたします。

（織原）

新潟地区会事務局
NHOさいがた医療センター
臨床検査科内
TEL：025－534－6751